

群馬板金広場

(群馬県シートメタル工業会会報)

2007年1月 発行

vol.13

GSMP

群馬県シートメタル工業会
GUNMA SHEET METAL PLAZA
<http://www.gsmp.gr.jp>

発行人

岡部 浩章

発行

群馬県シートメタル工業会事務局

〒370-0801

群馬県高崎市上並榎町342

TEL 027-362-3500

FAX 027-361-3066



ご挨拶

群馬県シートメタル工業会
会長

岩本 博

(株式会社太田治工)

新年明けまして、おめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、穏やかな新年を、お迎えのことと、お慶び申し上げます。

さて昨年の経済情勢は戦後最長のいざなぎ景気を越え59ヶ月を持続しておりますが、一部の大手企業の好調のみ目立ち中小企業の経営環境の改善には、つながっていない現状ではないでしょうか。私達工業会を振り返って見ますと、人材育成を主眼においた活動と工業会の活性化にむけ役員・事務局のご努力に

より充実した一年と感謝申し上げます。

また工業会の活性化と魅力ある工業会づくりを目指し全国組織の連携を深めるため、平成18年11月11日の全国工業会代表者会議により新しく全国工業会・正副会長会という名称の元に発足致しました。

全国22の工業会が5地区に区分して地区交流会を開催して情報の交流を通じ各工業会の抱える課題の検討・解決・(株)アマダの最新の情報・技術指導等工業会員でなくては受けられない、数多くのメリット追求が楽しみになると思います。全国22工業会のなかで魅力ある工業会を目指し役員・事務局一同努力していく所存でございます。

今年も環境の変化に柔軟に対応して明るい年になるよう、そして会員各社のご繁栄と皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

株式会社アマダ
取締役相談役

天田 清明

謹んで新年のご祝辞を申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。本年も業界の発展、振興に対しまして総力を上げて取り組んでまいりますので、変らないご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昨年の我が国の景気は、年末に「いざなぎ景気」を超え戦後最長を記録したと言われました。今年も多少の踊り場があるものの後退局面に入る可能性は少ないようです。とは言いましてもこの景気がいつまでも続くわけでもございません。この暮れ辺りからは少し禪を締めなおさないといけないのではないかと思います。金利の上昇、為替の動きには十分注意をはらっていく必要があります。

板金加工業界も、主要需要先の旺盛な設備投資意欲を背景に、かなり仕事も忙しかったのではないかと思います。とりわけ輸送機器、金型産業、電機機器と幅広く産業が集積している群馬を本拠地とする皆様は、経営的にもかなりの成果を上げられたのではないかと推測致します。今後も景気の波に左右されない企業を目差して、貴県行政が推進している「市場ニーズに敏感な製品開発ができる足腰の強い中小企業育成」計画などと連携をとり、工業会全体として取り組んでいただきたいと期待する次第でございます。

昨年弊社は、創業60周年を迎えました。10月から3ヶ月間行いましたイベントには国内外から5,000社のお客様に参加していただきました。本社会場は、「これからの板金工場」について熱い意見が交換され、エンジニアリングを志向する弊社の経営についても貴重な意見を頂戴致しました。あらためて御礼申し上げます。

最後になりましたが、貴工業会及び会員企業皆様のますますのご発展をお祈り申し上げます。

役員紹介



副会長
須田 亮伸 (株式会社アリギス)

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては穏やかな新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

さて、私が副会長に就任して、1年半になります。微力ではありますが、工業会の活動にお役に立てれば幸いです。今後とも御指導お願い申し上げます。

当社は、1954年に先代が設立し本年53期になります。1993年に(株)須田製作所から(株)アリギスに社名変更を致しました。事業内容は、産業車輛・板金機械・工作機械・自販機・重電機・健康機器などの板金加工一式であります。

現社名であります「アリギス」の由来をご紹介します。皆様もよくご存知のイソップ物語の中の「アリとキリギリス」から付けられたことは想像が付くかもしれません。それだけではありません。アリは誠実で勤勉、キリギリスは情緒豊かな心を持ったお話です。わが社はそんなアリやキリギリスのどちらか一辺倒ではなく双方を上手に加味し社員とその家族、社会の人々が納得し豊かな生活のできる会社造りを心掛けております。このようなコンセプトの基、社名を「アリギス」としました。そして、理念として最新設備に勝る人の技と心が最先端技術と考えており、一個人としての人間のゆとりが前向きな行動と良質な製品を精確にお届けできる即ち顧客の皆様や地域社会に真に貢献できるものと信じております。

ところで最近ブームかと存じます「漢字」ですが「商」とはどういう意味を持った漢字なのかご存知ですか。私なりに説明申し上げますと生産者(社員)と消費者(顧客)の間に立つ社会の生活を成り立たせるというを示しているのです。自分が儲ける事だけを考えていればその役割、使命を果たすことは出来ない。今の環境では大変な粘りと努力を要するが経営している以上利益も必要だ。しかし、仕事を通じて社会に良い製品喜ばれるものを提供する心で前向きに行動したいものです。

また、私は一昨年に代表取締役を譲りました。三代目は、まだ若輩者でありますが会員の皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

末筆になりましたが会員企業の皆様の益々の御繁栄とご多幸を祈念申し上げますと共に工業会に対しまして相変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。



経営部会 副部長
嶋田 英昌 (株式会社コイズミ)

2007年、新年明けましておめでとうございます。経営部会の株式会社コイズミ・嶋田英昌と申します。弊社も56回目の新年を迎え、関係各位には、深く感謝しています。

私は、今年で43歳ですので創業の頃は知る由も有りませんが、戦後の混乱により失職した職工4人で創業した鋳掛屋が始まりと先々代より聞いています。以来長きに亘りものづくりに携われた事を誇りに思い、今後も続けていきたいと思っています。古来、日本ではものづくりは大切にされ、職人は尊敬されました。100年以上続く製造業が多いのは、日本だけです。私たちも、今後も引き続きものづくりに携わり続けられる様、学びの一年でありたいと思っています。

これからは、「喜ばれるものづくり」に加えて「誇れるものづくり」も大切だと思います。安価、短納期、高品質と言った「喜ばれるものづくり」は、ものづくりが経済活動の一環である限り常識ですが、作り手の本音としては複雑です。安く、早く、良い物なんてなかなか出来ません。本当は、お金と時間を掛けてじっくり作りたいのが本音です。そして、ものをつくり続けられるのは嬉しいけど、それに見合った儲けが欲しい。賢沢したいだけじゃなくて、新しい機械も欲しいし、社員の皆さんの生活だってある。もっとお金が欲しい。でも、欲しいだけじゃ…。

そんなに商売甘くありません。

どうせ苦勞するなら、胸張ってしたいです。安く、早く、良い物なんて至難の業です。それを生業にしているのだから、もっと誇りを持っていいはず。『注文して良かった。』とお客様に言ってもらい以前に作り手自身が「これ、作って良かった。」と思えないといけないと感じています。そうじゃないと、安く、早く、良い物を作る事に、真剣に取り組めないじゃないかと思うのですが…。

子供じみた考えで、恥ずかしいのですが、だからこそ工業会に参加して、学ぶ価値があるとも思います。今後も、皆様のご指導宜しくお願いします。良い仕事をしますので、是非株式会社コイズミをご鼠の程、重ねてお願い致します。



総務部会 副部長
飯山 靖 (株式会社アイフ)

新年明けましておめでとうございます。

『伊勢崎の元気な40歳』(株)アイフの飯山です。

平成2年に産声をあげ、今年で18年目を迎えました。板金業におきましては後発ということもあり、とにかく精度を重視し、内装のメカ部品、多品種少量品を短納期にて作る事からスタートし、外装の溶接品、量産品へと加工を広げてまいりました。当初、お客様は県内が大半だったのですが、『お客様のかゆい所をかき』と思いつけながら紹介されるままにどこでも動いてきた結果、今では他県からの受注の方が多くなってしまいました。その中で振り返ってみると、良き仲間と出会った事を大変有難く思います。(従業員さん、同業の板金業者さん、削り業者さん、処理業者さん etc.)

今後も良き仲間とのネットワークの輪を広げながら、他県において『群馬に顔面を投げてみて下さい』と言い続けていきたいと思っています。

シートメタル工業会が『元気な若い仲間』との出会いの場になればと思っております。



監査
林 進 (株式会社林製作所)

新年明けましておめでとうございます。

群馬県シートメタル工業会の発足以来5年間に渡り、岩本会長の下で副会長を勤めさせていただき、17年度より監査役を勤めさせていただいております、(株)林製作所の林と申します。

9年前に群馬県にシートメタル工業会を作ろうと言うお話がありました。

曲げ板金作業の技能検定取得者は数名おりましたが、機械板金・NCT板金作業の技能検定は受検機会も無い状況でしたので、社員教育に重きを置いていただけの事を条件に発足準備より参画させていただきました。

会長はじめ教育部会の皆様のお陰を持ちまして、会員企業に多くの技能士が誕生し、弊社にも1級2級合わせて新たに10名の技能士を輩出出来ましたことに感謝いたしております。また、通信教育等各種の教育カリキュラムが有りますが、公害防止管理者(振動・騒音)、動力プレス機械の事業内検査者資格等法律制定時や制度開始時に資格を取得した社員の高齢化に伴い次世代に資格を取得させる為の講習会等の群馬開催をお願いしたいと考えております。

19年弊社に取りましては創業80年目の年です。新宿区下落合にて昭和2年に精密鋁金加工業として創業、戦災により高崎へ疎開、昭和41年までの開発メーカーとしての時代があり、昭和45年から受注品への転換等紆余曲折の中の80年でした。100年までのあと20年今まで以上に難しい時代かも知れませんが、シートメタル工業会の皆様方と切磋琢磨しながら頑張りたいと思います。

終わりになりますが、群馬県シートメタル工業会の益々の発展と会員企業様のご繁栄をご祈念申し上げます。

新入会員紹介



光栄工業有限会社

専務取締役
石川 和樹

この度、シートメタル工業会に入会させていただき事になりました、光栄工業有限会社の石川と申します。よろしくお願い申し上げます。弊社は伊勢崎市でレーザー加工を中心とした、試作及び多品種少量の製品を加工しております。板金業界に身を投じたのが、私が27歳の時です。それまでプレス加工中心の会社でしたので、アペリオを導入し、お仕事を受注し加工する事を手

探り状態で十数年行なってきました。幸い、お客様に恵まれ、又良き仲間にも恵まれ、今日の光栄工業があると感謝しております。今後もお客様や仲間、又諸先輩方に御指導いただき、良い製品を加工していきたいと思っております。私は物造りが大好きです。子供の頃の夢は大工さんでした。図面を引き、柱を立て、屋根を乗せ、内装の細かい作業をし、人が楽しく暮らす家を完成させる。すべてにおいて、知恵や技術、工夫が生かされている様で憧れでした。今日、板金加工を行なうにあたって、無形から有形にしていくことは、家を作ることに似ていると思ひ、物造りの楽しさ、奥深さと格闘しながら、完成したときの喜びを感じ、日々努力しております。人間の知恵は、道具を作り、その道具でまた新しい物を作る。人々が楽を求める事は無限であると思ひます。想像と創造をくり返しながら、今後も物造りに挑戦していきたいと思っております。色々な事を教えて下さい。聞かせて下さい。よろしくお願い申し上げます。

若手社員研修会

アマダマシンツールプラザ見学

フジセン技工株式会社 板金GR 金子 克也

この度、平成18年度若手社員研修会に参加させて頂き、アマダマシンツールプラザにて近未来工場をコンセプトにしたモデル工場を見学しました。感想としましては、人によるコスト、品質をどう設備にてカバーし、より高品質、よりローコスト、短納期に対応していくかを再確認しました。以前社内での未来の板金工場というテーマで自分なりの考えを提出した事がありますが、内容的に理想に近いものを感じました。

又、工程内不良などでよく起こる人的不良を無くす技術として新たに取り組んでいる商品、考えを数点みました。自分たちで工

夫すれば可能なものもいくつかあり、まずは社内にて報告、相談し行動をおこして行きたいと思ひます。人に仕事が付いてくるのではなく誰でも同じ品質、同じコストにて製品が造れる事は工場にとって理想です。今後追求していきたい課題と考えます。



Euro BLECH



ドイツ工場視察

株式会社アリギス

代表取締役社長
須田 耕司

10月22日から1週間アマダ主催によるEuro BLECH及びドイツ企業視察ツアーに株式会社アリギス須田社長が参加されました。この機会にドイツ企業についてお話をお聞きしました。

見学先 HEFTER社 主製品：工業用掃除機、印刷機、医療機器等開発、製造、サービス

GPG社 主製品：通信機関連、シーメンス、NEC等の板金部品加工

Q：日本の板金業態との相違点は？

— 見学したところの規模が大きかったかもしれないが、板金のみではなく、機械加工、塗装、組み立て等完成品になるまでの工程をもっている。特に機械加工が発達しているように感じた。あらゆるモノにR部が多く、削り出しが原点にあるようだ。板金に関しては溶接仕上げ等品質はさほどいいとは思えなく、部品加工精度も日本の方がいいと感じた。比較的ロットも多く、時間的にもゆったりしていて、生産管理面でも日本の方が発達していると感じた。(日本はそれ

だけ厳しい環境)ただ完成品もしくはその近くまでやれるのは付加価値が高いと思われるし、今後日本の製造業も目指すところではないか？と感じた。

Q：人材教育に関しては？

— 日本は昔から「見て覚えろ！親方の技術を盗め！」等が多いが、ドイツは教える事にとっても親切で尚且つ教える事に出し惜しみをしない…と聞きました。又、街並みを見ると、この街にはどんなマイスターがいる…という看板があり、改めて技術者に対して社会的立場の高さを感じた。

Q：その他？

— ドイツに限らないと思いますが、公共トイレが有料であり、そこには管理者がいてとても清潔である。雇用面、治安等含めてとても良いことだと感じた。日本でも取り入れるべき仕組みだと思ふ。



2006年度10月～2007年度2月 活動軌跡

2006年

平成18年度

- 10月12日 第50回役員会（東毛産業技術センター）
- 10月21日 若手社員教育（アマダマシン見学）
- 10月21日 技能検定前学科講習（伊勢崎文化会館）
- 10月22日 第8回親睦ゴルフコンペ
（赤城カントリー倶楽部）



- 10月27日～29日 リーダー研修（朝霧スクエア）
～人間関係とヒューマンエラー～

- 10月28日 メンテナンスゼミ（NCT、金型）
（岡部工業）

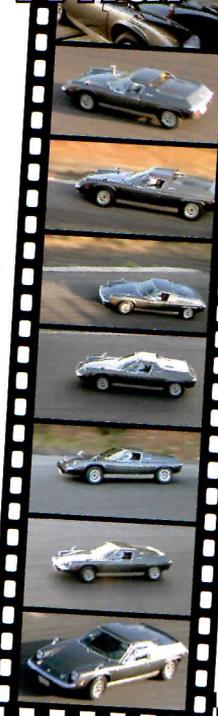


- 11月11日 工業会役員代表者懇話会
（フォーラム246）
- 11月11日～12日 技能検定前機械板金実技講習会
（岡部工業）
- 11月18日 技能検定前学科講習（伊勢崎文化会館）
- 11月24日～26日 フォローアップ研修（朝霧スクエア）
～生き残りをかけた経営革新～
- 12月 2日～3日 技能検定前NCT実技講習会（岡部工業）
- 12月 5日 第51回役員会（福一）

2007年

- 1月13日 技能検定前学科講習会（伊勢崎文化会館）
- 1月23日 賀詞交歓会 第52回役員会
（ウェルシティ前橋）
- 予定
- 1月27日 技能検定実技（協和工業）
- 2月 4日 技能検定学科（群馬県職業能力開発協会）
- 2月 7日 技能検定実技（太田治工）
- 2月10日 技能検定実技（岡部工業）
- 2月11日 技能検定実技（松見精工）
- 3月 第53回役員会

What are you interested in?



私とヨーロッパ

株式会社中沢工業所 中沢 志光

2006年10月、福島県二本松にあるエビスサーキット走行会に娘と共に参加した。

エビスでは、一番小さい北コースを貸切り、ロータス エスプリ、エクシージ、エラン、NSX、86 レビン、レースカー等と共に私のロータス ヨーロッパが走行。

サーキット走行会と言っても、速さを競うものではなく、私の場合、早く走るよりも気持ちよく走らせるもの。今まで走ったサーキットは筑波、富士、モテギツインリンクで、サーキット走行を通じて思うのは、コースの巾が解りにくいこと。センターラインがなく、ガードレールも有ったり無かったり、またコースラインとは別な位置にあって、普通の道路がいかにも走りやすく設計されているのが感じられる。でも毎回楽しく走らせて頂いている。1時間連続で走った際には、全身が汗ビッショリでヘルメットの中は、水をかぶった状態でも気づかないほど。

私のヨーロッパは約30年乗り続けており、特に大きな故障はないが、オルターネーターのベルトが切

れたこと、ブレーキのマスターバックが壊れたこと、クラッチ盤、電動ファン、車軸のベアリング交換とブレーキのオーバーホールぐらい。

ちょっと困った故障といえば、東名高速の海老名サービスエリア集合のツーリング時に、環八を海老名に向かうなか、渋滞で時間を心配しているときに後ろからの異音。メーターを見るとアンメーターがマイナスに触れていた。確認すると、オルターネーターのベルトが切れていた。近くのガソリンスタンドで聞くと、このサイズのベルトはなく、近くの金物屋で交換、無事に海老名まで行くことができた。携帯電話がない時代で1時間以上遅れたが、ツーリングのメンバーが待ってくれていたことに驚いた。

私の愛車との旅は、魅惑と感動、学びの連続である。その道中には、たくさんのお会いと喜びが溢れている。趣味を楽しむことで、毎日のさまざまなストレスも解消され、より充実した人生となっている気がする。これからも、愛する家族と車、そして仕事の仲間たちとともに有意義な人生という名の旅を満喫したいと思う。



編集後記

「2007年問題」

明けましておめでとうございます。本年も1年“GSMP”を宜しく御願ひ申し上げます。

さて「2007年問題」という言葉があります。要するに戦後数多く生まれた団塊の世代が定年を迎える年で、労働力・技術の継承が問題視され始める年という事です。確かに今の日本は、戦前生まれの鍛えられたカリスマ的リーダーの下、団塊の世代が忠実に働いて、世界でも類まれなる高度成長を成し遂げてくださいました国です。そうした団塊の世代が定年を迎え仕事から離れ

ていく事は日本の損失である、として「2007年問題」が言われているようです。ところで、私が中国に頻りに行き出して5年以上が経っていますが、中国に行き行って感じた多くの事の中に、定年後の数多くの日本人が、中国の会社で生き生きと仕事をしている、という事を何度も目の当たりにしました。彼等の持っている技術・経験が、中国の会社で生かされている、という現実実は、今でも中国で数多く見受けられます。日本の技術流出です。我々は「2007年問題」を問題としてでなく、チャンスと捉えて頑張りましょう。
(岡部浩章)